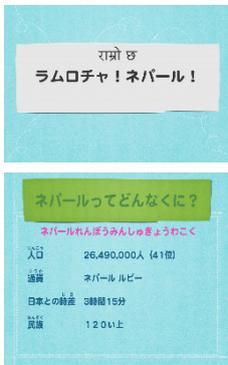


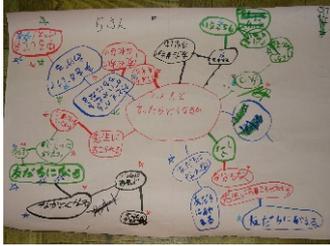
氏名	鶴見 千歳	学校名	栃木県 小山市立若木小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	第2学年（64名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年10月～12月（5時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：学活／道徳		
2. 単元（活動）名：ひろいせかいのたくさんの人たちと		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業のテーマ：ちがって○○だね！ 単元目標：自分とは異なる文化に興味をもち、親しもうとする心情を育てる。 関連する学習指導要領上の目標： 「国際理解、国際親善 他国の人々や文化に親しむこと。」 （『小学校学習指導要領』第3章 道徳、第2 内容 4主として集団や社会との関わりに関すること（5））		
4. 単元の 評価規準	①知識及び技能	外国の文化に興味をもち、親しもうとすることができる。
	②思考力、判断力、 表現力等	外国の文化にふれ、日本との共通点や相違点に気づき、その面白さや興味をもったことを表現する事ができる。 今後自分はどうか行動したいか考え、表現することができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	外国の文化に興味をもち、外国について積極的に知ろうとしたり、関わろうとしたりしている。
5. 単元設定の理由・ 単元の意義 （児童／生徒観、 教材観、指導観）	【単元設定の理由】 普段の児童の様子を見ていると、困っている友達に自然と声をかけられる優しい面がある中で、自分とは異なる意見や行動に対して、否定的な態度をとる様子が見られることがあった。国際理解教育は、外国人と仲良くなるだけでなく、外国の異文化を知ったり、交流したりすることを通して、友達とよりよく過ごすための方法を学ぶことができるものだと考えた。小学2年生という、日本のこともまだ学び始めた途中で外国の文化を学ぶことは難しいことかもしれないと感じた。しかし、長期的に考え、いつか「あのときあんなことを学んだな。聞いたことがあるな。」と振り返って思い出してもらえればよいと思っている。 自分とは異なる文化に触れ、受け入れようとする経験から、自分とは異なる意見や行動を肯定的に受け入れようとする態度を育むことができるとよいと思い、本単元を設定した。	
	【単元の意義】 世界にはたくさんの人がいて、たくさん文化があつて、認め合いながら生きていることを体感しながら、自分とは異なる文化や考えを、肯定的に受け入れることができるようになるきっかけとなるのではないかと考える。また、この単元を通して、更に他国を知り、親しもうとする気持ちが高まると考える。	
	【児童／生徒観】 本学年は、男子30名、女子34名、計64名が在籍し、素直で、困っている人に自然と声をかけられる優しい児童が多い。外国籍の児童が2名いるが、1年生の頃から一緒に過ごしているため、自然と友達の輪の中に溶け込んでいる。2年生であることもあり、授業で世界に関する内容を扱う機会がほとんどないため、児童の世界への関心は低く、知識も少ない。国際化が進む社会を生き抜いていく力を育むきっかけとなればと思い、授業を展開していく。 【指導観】 人それぞれ考えは違うというスタンスで、「違いを必ず受け入れていこう」ではなく、あくまでも児童の気持ちや考えを尊重しながら学習を進めていきたい。その考え方の違いにも視点を当てて、どんな理由で受け入れたくないと思うのかも聞き、共有することで、色々な考え方があるのだということに気付けるようにしていきたい。また、小学2年生が楽しみながら外国を身近に感じられるよう、体験学習を中心に五感を使って学習を進めていきたい。	

6. 単元計画（全5時間）

時	小单元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	学活 「つるみ先生 ネパール へ行く！」	世界への興味 を広げること ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図の中から、ネパールを探し、どんな国なのかイメージをする。 ネパールで先生にしてきてほしいミッションを考えることを通して、興味をもつ。 海外に興味をもつために、何がどこから来ているのか世界地図に書き込んでいく活動をすることを知る。  <p>【授業の様子①】 （授業後、廊下に世界地図を貼り出し、何がどこから来ているのか子どもたちに書き込んでもらった。食べ物や洋服など、意欲的に取り組んでいた。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント① ワークシート① 【資料1】 世界地図
2	学活 「ラムロチャ！ネパール！」	クイズやカルタを通して、ネパールについて知ったり、興味をもったりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントや撮影した写真、動画を見たり、クイズをしたりすることを通して、ネパールの基本情報や様子について知る。 現地で撮影した写真を使ったカルタで、ネパールの様子を知る。  <p>【カルタの様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント② 【パワーポイント②の一部】   <ul style="list-style-type: none"> 現地で撮影した写真や動画 ネパールカルタ
3	学活 「ネパリになってみよう！」	ネパールの言語、食べ物、民族衣装、ティカ、音楽を体験し、外国の文化に興味をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ラブシーキャンディを食べたり、ティカをつけたり、世界のお金を触ったりして、外国の文化を知る。 民族衣装を着る体験をする。 日本と違うところはあるか考え、その違いに対してどう思うか意見を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の民族衣装 ラブシーキャンディ ティカ 世界のお金 ネパール米 ワークシート② 【資料2】

		<ul style="list-style-type: none"> ・「レッサムフィリリ」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レッサムフィリリの歌詞カード 	
		 <p>【授業の様子②】</p>	 <p>【授業の様子③】</p>	
4 本時	学活 「みんなはどう思う？」	<p>異文化を体験し、そのとき感じたことから、「違い」を持つ人とどう関わっていけばよいのか、考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食のカレーを手で食べてみる。抵抗がある児童は、なぜ抵抗があるのか理由を説明する。 ・派生図を用いて、自分との「ちがい」をもつ人とどう関わっていけばよいのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 ・パワーポイント ③【資料3】 ・ワークシート③ ④【資料4】【資料5】
		 <p>【児童が作成した派生図】</p>	 <p>【派生図を作成する様子】</p>	
		 <p>【授業の様子④】</p>		
5	道徳 「ひろいせかいのたくさんの人たちと」	<p>ほかの国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの国から伝わったものについて話し合う。 ・外国の食事について調べた主人公の気持ちを考える。 ・これまでの授業を振り返る。 ・ほかの国のことでもっと知りたいことについて話し合う。 ・これからほかの国の人とどう関わっていくか考える。 ・メッセージ動画を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業の写真 ・ワークシート⑤ 【資料6】 ・青年海外協力隊の先生からのメッセージ動画

<p>7. 本時の展開（4時間目） 本時のねらい： 異文化を体験し、そのとき感じたことから、「違い」を持つ人とどうか変わっていけばよいのか考える事ができる。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・ 発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p>導入 (10分)</p>	<p>1. 給食のカレーを手で食べた体験について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めから体験してみると言っていた子。 ・体験しなかった子。 ・初めは体験しないと書いていたが、途中から体験してみた子。 ・それぞれの意見を聞く。 <p>2. 事前のアンケート結果を提示する。</p> <p>①「ちがい」をどんなときにかんじるか。 ②「ちがい」をかんじたときどうしているか。</p> <p>3. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「ちがい」をかんじたときにどうしていきたいか、じぶんの考えをもとう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化の実体験から話し合うことにより、本時のめあてにスムーズに入れるようにする。また、様々な立場の意見を聞き、多様な意見に触れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 ・パワーポイント
<p>展開 (25分)</p>	<p>4. 「ちがい」に対して否定的な反応をしたときに、どういうことが起きるのか派生図を使って考える。</p> <p>①もし、自分のクラスに自分と「ちがい」をもつ子が転校してきて、その子に「変！」と言ったらどうなるか。 ②もし、自分が外国に1人転校して、「変！」と言われたらどうなるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの派生図を見る時間を設ける。新たな発見には☆印を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・マジック
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5. これから、自分との「ちがい」をもつ人とのように関わっていききたいか、感じたことや考えたことをまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4での活動を生かし、自分の考えをまとめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法 [思考力、判断力、表現力等] ・外国の文化にふれ、日本との共通点や相違点に気づき、その面白さや興味をもったことを表現することができる。(授業の様子) ・今後自分はどう行動したいか考え、表現することができる。(ワークシート)</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2時間目「ラムロチャ！ネパール！」では、現地ですら撮ってきた写真を使い、カルタを作成して遊んだ。楽しみながら異文化を学ぶことができた。 ・3時間目「ネバリになってみよう」では、JICA 筑波からお借りした民族衣装を使用した。児童に、国によって色々な服があることを体感しながら楽しんでもらいたいと思い、JICA の方に相談し、民族衣装の貸し出しを行っていることを知った。授業の中だけでなく、学校祭の発表でも使用した。かわいい衣装が多かったので、楽しみながら外国に興味をもってもらえる良い機会になった。 ・4時間目「みんなはどうおもう？」では、特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センターの方にアドバイスをいただいた「派生図」を使って学習を進めた。2年生でも考えられるテーマを設定した。グループで多面的に考えられるように、机間指導をして助言をしながら話し合いを進めた。派生図を使ったことで、多面的に考えたり、自分事として考えやすくなりすることができた。 ・5時間目「ひろいせかいのたくさんの人たちと」では、同期で現在青年海外協力隊としてタンザニアに派遣されている先生に協力してもらい、終末にメッセージ動画を見せた。外国と自分がつながっていることを感じてもらおうと、クラスの児童に宛てた動画を作成してもらった。 			

動画では、タンザニアと日本の文化の違いや共通点、タンザニアに行って感じたタンザニアの良さや日本の良さを伝えてもらった。青年海外協力隊の存在を伝える良い機会になったと共に、外国から自分たちに宛てたメッセージが来たことを児童はとても喜んでいて、外国をより身近に感じることができたのではないかと思う。

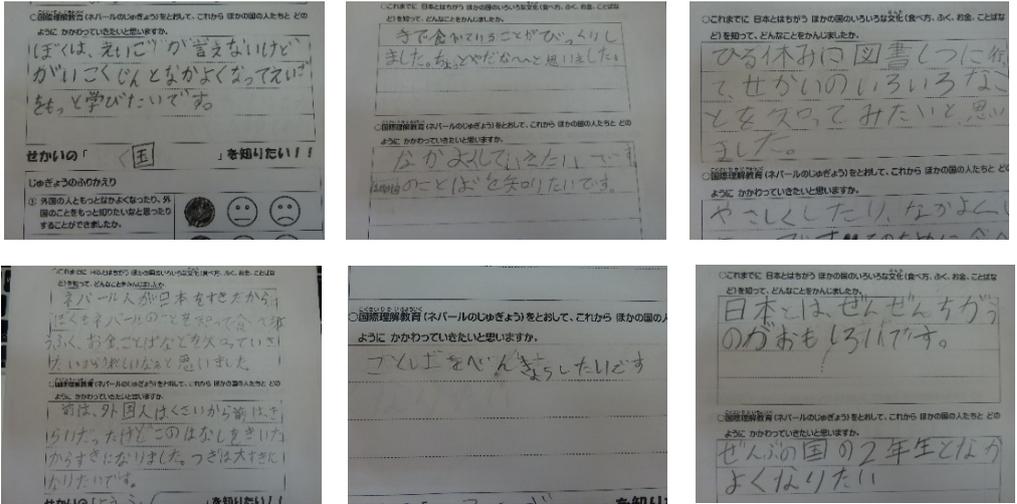
- ・ 少しでも外国に興味を持ってもらえるように、教室に外国に関する本コーナーを設置した。その際、ネパール現地で購入した本や教科書、JICAからお借りした本などを置いた。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・ 帰国してから、ネパールでどんな研修を行ってきたのか、同僚の先生たちに向け、30分程度発表の時間をいただいた。
- ・ どの授業も、校内の先生が自由に入って見てもらえるよう、事前に周知をしておいた。特に4時間目の「みんなはどう思う？」は多くの先生に見ていただき、授業の感想や助言をいただくことができた。
- ・ 国際理解教育を進める前に、保護者の理解・協力を得るために、自分の研修の様子とともに、今後どんな内容で授業を進めていくのか、学年だよりを発行した。また、授業を行った後は、必ず学年だより（特別号）を発行し、どんな内容で授業を行ったのかを伝え、写真や児童の感想を入れて、家庭での話題のひとつになるよう意識した。
- ・ 学校祭の学年発表の際に、これまで行ってきた国際理解教育のまとめとして、民族衣装を着て発表した。他の学年の児童も興味をもってくれた。

【自己評価】

11. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私が勤務する地域は、外国人が多いので、クラスに外国人児童がいても、児童は違和感なく生活をしている。その中で、あえて「ちがい」について取り上げることは、今まで当たり前だと思って仲良くしていた児童の関係を複雑なものにしてしまうのではないかという懸念もあった。しかし、私が伝えたいことは、見た目の違いだけではなく、考え方や性格なども含めた「ちがい」であったので、児童の関心に配慮しながら授業を行った。 ・ 「ちがい」を肯定的に受け入れることについて考えるのは、低学年には難しい課題だった。そこで、まずは外国に興味をもってもらうことから始め、本題に入りやすいようにした。外国に興味をもってもらうために、教室内に外国に関する本コーナーを設置したり、絵本の読み聞かせを行ったりした。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人児童が在籍するクラスで実施する場合、第4時目の①もし、自分のクラスに自分と「ちがい」のある子が転校してきて、その子に「変！」と言ったらどうなるか、という問いは違和感があった。 ・ 「ちがい」ばかりに視点を当てすぎてしまい、日本とネパールの共通点を見つける時間が少なくなってしまった。
13. 成果が出た点	<p>今まであまり外国に触れたことがなかった児童が、「外国に行ってみよう！」「外国人となかよくなりたい。」「もっと調べたい！」とってくれることが大きな成果だと感じている。図工の作品でもネパールに関係する工作を作っている子がいたり、自主学習で世界の国旗について調べてくる子がいたりするなど、関心をもってもらえた。</p> <p>また、「外国は嫌い！」と頑なだった児童に、「ネパール人は日本人が好きなんだよ。日本語を学びたいって人がたくさんいるんだよ。」と話をすると、「そうなの？それは嬉しい！」と言って、「ネパール人が日本を好きだから、ぼくもネパールのことを知って食べ方、ようふく、お金、ことばなどを知っていきたくて思いました。」とワークシートに記入している姿も見られた。</p> <p>手でカレーを食べてみる経験は、大人にとっても抵抗を感じてしまうことだが、児童は、これまでの教えである手で食べると行儀が悪い、汚いから「嫌だな」という気持ちと「やってみよう」という気持ちの間で悩み、やってみようと思った様子が見られた。</p> <p>以上のことを考えると、「ちがい」を肯定的に受け入れようとする態度が育まれ、外国に興味をもち、親しもうとする心情を育てることができたのではないかと感じている。</p>

	<p>【ひろいせかいのたくさんの人たちとワークシートより】 外国に興味をもち、もっと学びたい！という児童が多数だった。</p>  <p>「私も、協力隊に行きたいと思っていたことがあります。」「子どもが家でよくネパールの話をしています。」など、児童だけではなく、保護者から色々な話を聞くことができたことや、学校でカレーを手で食べる体験をする前に、家で練習してみたという子が何人かいて、家族みんなで興味をもってくれている様子が見られたことが嬉しく、やってよかったと思った。</p> <p>2年生で国際理解教育を展開することは難しさもあったが、一方で、正直な答えをたくさん聞くことができ、貴重だった。「なぜ手で食べたくないのか」や、「エスカルゴを食べるフランス人をどう思うか」など、児童との話し合いが盛り上がる機会が多々あり、様々な意見を聞くことができて楽しかった。児童も初めて考えることがたくさんあったので、楽しそうだった。</p> <p>6年生では社会科でJICAが取り上げられている単元があるので、他の先生が作成してくださったメッセージ動画を使って、今後も飛び込みで授業をしていきたいと思っている。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	

参考資料：

- ちびむすドリル、<https://happyilic.net/syogaku.html#collabo>（世界地図）
- 『よりよい未来をともに学び・ともに創る ファシリテーターのための参加型アクティビティ集 コミュニケーション編-他者に関わる力を育もう-』久世治靖 佐藤かおり 田口裕晃 鉄井宣人 二宮由布子 吉岡嗣晃 執筆、特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター
- 『手で食べる?』森枝卓士 著、福音館書店

添付資料：

【資料1】ワークシート①



つる見先生、○○○○へ行く

くみ 名前 ()

○みんなが知っている「くに」を覚えてね。

Blank box for drawing or writing.

○「 」のイメージ

Blank box for drawing or writing.

○ア...

イ...

ウ...

エ...

オ...

○つる見先生にやってきてほしいこと

Blank box for drawing or writing.

【資料2】ワークシート②

ネパリになってみよう！

組 名前 ()

①今日のじゅぎょうで、日本や、じぶんたちの「ちがいを」かんじましたか？

はい ・ いいえ

「はい」とこたえた人は②へ。「いいえ」とこたえた人③へ。

②それは、どんなところでかんじましたか？

また、そのちがいをどう思いましたか？

Blank box with horizontal lines for writing.

③かんそう

Blank box with horizontal lines for writing.

【資料3】パワーポイント③

カレーを手で食べてみた



かんそう①

もともと食べない！でも食べてみた！

- ・ネパールの人たちはちがうから。
→手で食べておいしかったです。
- ・手でちよくせつたべものをさわるのがにがてだから。
→おいしかったです。
- ・ぎょうぎがわるいし、ちゅういがたくさんあるから。
→さいしょはどうやってたべるのかわからなかったけど、たべてる間にルールがわかりました。
- ・よくれるから。

かんそう②

もともと食べてみる！

- ・はじめてだから、一こはんがもちもちだった。
- ・ネパールみたいなたべてみたい
- きもちくいつちもよちもともおいしかった。そしてネパールのきぶんでした。
- ・インド人は手でたべるから。
→おもしろかったー！！
- ・いつもは手で食べてないからしょうせんしてみる。
- ネパールの人はこうたべててむずかしいのかと思いました。
- ・ネパールのことをいっつこっつほいしりたいから。
→はじめて手で食べてたのしかったです。またやってみたいで。
- ・このあいだインドのおみせが小山えきの中にあつたので手でたべたし、小山えきの近くにもあつたのでそこでもたべました。
→手で食べるとおもったよりおいしかったです。



かんそう③

もともと食べない！でも食べてみた！

- でもやっぱり、、、
- ・家でやるとおこられるから。
→むずかしかった。スプーンのほうがいいかった。

はせい図をつかって
考えてみよう！

①もし、じぶんのクラスにじぶんとの
「ちがいを」をもつ子がてん校してきて、
「へん！」と言ったらどうなるか。

②もし、じぶんががいこくに
1人でてん校して、「へん！」
と言われたらどうなるか。

じゃあ、これから
どうしていききたいかな？

【資料4】ワークシート③

これ、どう思う？

名前 ()

今日の給食はドライカレーです。「手で食べてみたい!」という人は、手で食べてみよう! 「やっぱりいやだな・・・」という人は、なぜそう思うのが教えてね!

*どちらかに○をつけてね。

わたしは、 () 手で食べてみる!

() やめておく!



わけ

Blank writing area with horizontal lines for explaining the reason.

*たべてみて、どうだった?

Blank writing area with horizontal lines for describing the experience after trying it.

【資料5】ワークシート④

みんなで考えよう

組 ()

じぶんと「ちがい」をもつ人と、これからどうしていきたいと思いませんか。あなたの考えを書きましょう。

わたしはこうしていきたい!

Blank writing area with horizontal lines for expressing thoughts on differences and future goals.

みんなで考えよう

組 ()

じぶんと「ちがい」をもつ人と、これからどうしていきたいと思いませんか。あなたの考えを書きましょう。

わたしはこうしていきたい!

Blank writing area with horizontal lines for expressing thoughts on differences and future goals.

【資料6】ワークシート⑤

だい 21 かい どうとく 「ひろい せかいの たくさんの 人たちと

名前 ()

これまでで、日本とはちがう ほかの国のいろいろな文化(食べ方、お金、ことばなど)を知って、どんなことをかんじましたか。

Blank writing area with horizontal lines for sharing experiences with different cultures.

国際理解教育(ネパールのじゆぎょう)をとおして、これから ほかの国の人たちとどのように かかわっていきたいと思いませんか。

Blank writing area with horizontal lines for expressing future goals for international understanding education.

せかいの「 」を知りたい!!

じゆぎょうのふりかえり

① 外国の人ともっとなにかよくなったり、外国のことをもっと知りたいなと思ったりすることかできましたか。



② 国際理解教育(ネパールのじゆぎょう)は、たのしかったですか。

